



帝  
 地  
 奇  
 巴  
 百  
 名  
 堯  
 若  
 雅  
 世  
 歆  
 合

特別  
 4  
 8205





けね記を教河と名付ゆり夏立ぬと及り初編題

とよめり春以よ同修早とつて記よ家此教河と

教也実海ありお板信見須广珍田ある者よりわま

人此よりお紙を解しゆりてふにふの玉あり此開よ

海く河成ふありいさる者家あれた安佐と彼ゆり

ゆとりよわくしてあしむせいつととま家家のゆり

大織冠より代く此折政開白あるの教こそ氏よ生

ゆへたりつよ中納言乃位なるゆりゆとゆり述懐て

少うさ露お下じきよといらありむせあといとこりゆり

これの官位とすまぬよとあつたされつる前也及ゆり



て菟川と世よりあつたきり拾遺あるまに建保四年より  
撰述あり及乃あるれ拾遺愚草より及入竹より定  
家編終後より為家は皮百を此を以て加つれと  
きものことと約いぬ家なりぬ皮菟河を約ありぬ  
ありふく皮百首漢文初物此物流あり種々約あり  
りせ約あり

定家卿為乞以程題百首初歎

春二十首

閑路早云

たのこち一実の菟川云来てと流りぬより下じきいつ  
やきつりて越たり云此ぬよりと菟河の實此ぬよりある  
古今集才サ局より時西より奇らぬ玉園流  
菟河流よりと君みつらん美代云よ是の元  
を此流よりこの奇とあると此云つてその歎い  
述懐乃ら流ぬ轉任是より不付せんより

湖上初歎

朝日くをみかめあれたこのやへあえやい吹くもあつれ浦  
ちの浦や浪もくすじ物評よ長果お返るあまの物也  
い奇境ありと對して湖水の奇也

鹿沼を遊樹

三橋北山より里くまじ物流川りくよあひらん二牛北松  
花内ぬ河内北橋のまおまるとりり北へつるな  
古今うらを河方うらの人よ二牛北松あつくと  
ふと道らん二牛北松まら里くまじまぬや  
あつれ二牛と竹らん元急北後象よあつれ

巽中波号

朝出くを山よりりのり衣たくるよもる人若れ号  
右果わらあまじと旅あり福あれやまの地山北号の  
反撰きういのを山よりれり衣うそいひお  
多紙のうそなく元良歌ま奇くを山よりと  
うみくを山鳥と目さこらるるや

隣家竹号

山より北をまよまきくうあれて川の竹かよいよ号  
新の粒くれぬ物紙ありまこれつる竹お号北号  
古今梅の花んまをまられ号北ひとく  
いとひとく

田家着菜

小山園のこらりよ梅のあきついでにこらり梅あなまを  
秋あつことつれはしれあつはりし目一田園よりなを  
ことなすらん

野介致雪

雪の地いつり北雪の清くそふありん出る神を数ふ  
もし出る雪清きそあつれくはは小野よ梅の  
古今のこらり地のりな梅も白ぬれ神ありて  
人のひらん雪之目雪の地火の地あつる  
みよとつりありてりなはこらん

山後梅花

雪と雪もさつて越し梅のむ白も雪のめり梅山  
梅もと秋よとぬる白いそそきりし梅よ  
古今梅の雪よけも雪のこらり山園よこあれと  
あつと地もさつ

梅意書風

白いらつ梅よきさ梅くよくはあまの雪む出ん  
あつむり梅のたより梅意書を尋くもたつめむ  
星梅と竹のあつりよつとく二月雪をこれ  
天のこらりあつりやう梅も梅も梅意よれ

と只ぬぬの早もか出ゆるうら

水色古柳

夕月とらり又夕らな柳陰あり河此末のふれま  
親らと此よあまれ散るを春をうらわらち柳乃春  
あり河伊勢物徳の河

西中納花

夕ららや木の目とらりの柳むあわれいつあのみぬれを  
まふれつらつじよあまぬれのかとといそく山柳らな  
朗詠雨暮る自る花又女流来寧并茶老后  
うらぬとあわのいじむとらりの海流と寧る  
暮寐タリト云より起りり万葉たけらの此あわの  
いつあれうらと縁をわらふ時のこころをさる

野花ぬ人

たまふりうらうたせまぬくあむれうらとふ世と世への人  
花のちよとあしられぬあまとしてほやとそく人あむれうら  
古とらりまそく人よらのわくぬんせりうら  
みせし柳あまし素性むらうらとそく万葉は  
あはよ述くれうらよの家れつまのあま(一)  
玉とらりれり金砂のむれあまあ(二)うらな  
はりの家のうらまらよ(三)あ(四)あむなとら

素性のまゝとどろり但素性の我一人はむら  
りたる徳人とてまじりつゝ世のつらさごとく  
み代も物あやしとて

をむ山花

色まよふ海よのそらやま〜らん此を橋北河のゆれと  
戸入つらやせたる山橋をそへ麓のま〜つた  
比奇の只ら〜〜〜

曉庭落葉

あ〜あ〜りよののそら吹風よ暮の緑とむをあら〜  
るの月をほきまらぬ花をみまらぬのつと〜ん  
た〜と志の〜りれ〜〜〜とめら〜の〜  
あ〜ら〜り〜〜〜け〜れ〜り〜ま〜は〜ぬ〜

ぬは夕花

黒いおきぬ庭の橋のつら〜と〜あ〜れ〜時〜と〜人〜  
み〜人〜と〜あ〜ら〜ぬ〜花〜と〜ら〜と〜と〜ら〜ぬ〜の〜  
け〜奇〜只〜前〜と〜ら〜〜〜〜と〜ん〜な〜り

河上春月

ひまれあ〜れ〜と〜あ〜ら〜ぬ〜せ〜川〜麓〜の〜側〜は〜  
長〜毎〜よ〜ら〜と〜む〜ひ〜の〜あ〜れ〜川〜を〜た〜ら〜ぬ〜月〜の  
陽〜女〜院〜御〜衣〜つ〜ら〜ぬ〜花〜を〜ら〜ぬ〜の〜川

花をうつりて例とありけり

浪取御店

まのぬれは声乃きとあぬまたなむれんのきんきん  
あつらふまきし浪しあの月影よ付とあて海を居る

浪取の心新

散花浪風

松風の寄もそあつよたふしつゝあつあつ散花末と礼せ  
風吹ぬれち水ゆかみ枯もあひくき浪散るこ  
せ二三の白めし

栢色秋冬

栢りりちよむらうこのきよといつそや自よ山の花  
いづつよとつせしきと山のむよこつる花  
なすくれ栢の根原山の北のあちちよう

舟中書巻

くわのれ新成志のくぬしのき流さいとまきん  
あつらふまきし浪しあの月影よ付とあて海を居る  
美里浪波海よまきとあつらふち根めや

五十首

卯花浪海

卯花の枝とたりぬのきとみよとあつらふち根めや



おむのちりしれやたふらん高よまらしいよのゆに

惟高親王御く〜ありて小野北山里よつ建

ころりかりお〜ろろを葉まじ〜のれよりみ

よじ月女集けか時ひえの山北麓如くれい

者らゆらうことあむひのゆせよあまんありま

なりぬち根をみそくちなりて海どく〜忘れ

ていあ〜とそとろあゆい〜く者路からて君を

ふんとはせゆ〜と面礼をげあむようり

せりあゆの里〜とよりあ花は地あれい〜れ

〜とあゆをみり〜の海名よねあ〜とせ

〜とあゆをさるあ花のり〜と

とみ〜り又あ〜た〜の露をみよと飲海約

意難え露秋南泣海洞岡風を松想〜

又と盛時花酒濺後恨別鳥節心

物々又節云

あつ〜と露をき〜の時も又打ん〜と〜のたを

数あ〜ぬろよ〜た〜つぬ物方とてあ〜た〜る節云

古今あ月あ山あ親打ん〜あ〜今とあ〜た〜ん

あ〜とあ〜日集あ〜る〜あ〜あ〜とあ〜し〜り〜た〜ま〜ふ

あ〜あ〜あ〜と〜と〜秋風を〜あ〜く

山家抄稿

この里のまらりと雨のそむく時さかたのいこもの使はれぬ  
都云はるんといふと山海を伝へいあごとくおらん  
けり新しくと理を以て新し

池初曹蒲

明らるり多かりあやめ池水よこの五月をあらあ  
はるは浪よきけしあやめと都り神の力を記す  
此飲目前妙語

用居敷火

ころろとて煙と見し時さかぬ行れん山の奥のちみ  
ぬき火の煙こそきこいひしはらふも宿をまじは  
ししぬ山ゆりのゆりのそこのおちこまむ  
君にあふんは初めは煙をそんで行れん山に  
あしをいれはくまらふいと何とあそふ  
まじしれ面鏡り

意橋巻る夏

神のさつたる梅よ枝はなむをてつれあふり夏は付  
夏あて昔よあふらみ枝よみ新えは神よりかけ橋  
古今何あきいるあふらつるいし白色の結を新  
君のんぞ忠告

枯立月ぬ

日いんのほしぬありぬありぬ此景ふくらんぬ此枯  
つらくと日敷ととつらふりりせりてふらふらぬ  
右今や林院より人のりたてさうらふらぬ  
とらぬのじけりぬ景あふり遍照

野々麦草

あつて野のよつらつ下系たるるふ乱うりつら雲と灼  
度じとよつらあるれい交の野此景流あてとらぬあり  
伊勢物語みけりのく此志うまらりけり誰ぬよこ  
あまそあふり一紙なうあつて融大巨新たし  
あまらりありれ恨の消あれ花のたてあまの  
山の歩 舞草

洞庭螢火

日影みとつらととあまらほし景の螢地光あつら  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
右今やあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
とらぬのじけりぬ景あふり遍照  
けき時ありらる人のあつてあつてあつてあつてあつて  
みくらつらたなまはあつてあつてあつてあつてあつて  
とらぬのじけりぬ景あふり遍照

行路夕立

夕立の袖とちりりのら夜つらうらむぢきまのれえ  
あしやて目敷さうあのお海もともくさうら夕立の  
風情物ぬや夕立乃泣らりらねとつと海

秋二十首

袖縁物風

袖縁物といふ斗あるふもいふよあひけの風れらうら  
いつのまよは吹りうらんこのひなる物も此袖乃秋の袖  
浪氏物くも歌いをもとらあらもあく浪さ菫  
乃もああうらさ

岡月七夕

あまの河あはれいさのいさあれとら此衣やよとあは  
浪河あはぬあうらうらとあひことあひ恨の物いさ  
下二句いさよとあひいさ

飛亭夕菫

秋菫よあはれく物人の夕立あまうらうらうらそやあは  
畑ん子の花とあはらう夕菫よ此衣とらりの物人此菫  
古今菫此菫あまあうらとあひいさあはら  
人あはれあうらみよ

江色曉菫

明らり萩の東家此のくも月乃入江を出る舟  
あきりり入江北浪の静くそ萩北家東よ妙海風  
桐葉萩花秋来く静海題秋夜蓋庭例  
裏孤舟及橋柳更既万里心舟名

山家初鴈

秋風のやままし萩を越て外山北里よ鳥い来なり  
夏より成るつづくく丁金の鳴くそあふ萩北山  
風神優美し

海上初月

ありり初秋あり花成るつづくそあふしとささい  
りのあつくと浪北浪りそあひ月乃萩を北山  
古今より海のつづくよあきる白ぬ北海は  
へるありり海山家と本もさつられそる海の  
浪の花よそ秋ありりろ万葉山北浪よいさよ  
月と出んと初月とつづくあそまよろり武士の  
八十宇治川のありあふいさよあけれり出るは  
お同夜月 あそんを

神りり多やみより北松舟よあつてふあつる月を  
もち月の心はくし乃つあふそああそと心あつる  
あひよあひくあおのよ北海神小や月あ

わづりかたり仔細

深山見月

花あゝいづくみほととけよみらの月と人の花  
むなしくて又わづりくつねをゆく奥に秋の御宿月  
とと山をこへてすまぬ様むつてなほとあつて

東海映月

いさし世にたつあきとらぬ白露よあつてあつて  
清い庭落れ雲りと秋とく新れあよよとる月影

古今紫の一とあよじさうのあつてあつて

<sup>反接</sup>白露と風れ吹く秋れ世つたよとらぬとあつて

閉路惜月

お板いさうえん日銭取てもそり月此雲ちとあつ  
あつてさうやういよの月影とあつてつじはつた雲  
お板の園まてゆれいあつて此板えん日と雲つる  
とと善夫とり月ととりの庭園ちあつてこれ  
たのま運とと<sup>反接</sup>是やびりと海もさうとて  
とるしとつたととを板の雲は雲丸れつと秋とと  
してよあつてあつて

鹿野板友

山嵐れ竹より外れさうなとらうとく麻れ庭のあつ

数ありぬうきもれなとれじあふらつちあふらつち  
君臣れ徳竹乃所 の所

田家持衣

露のあつてれ山田の同よもつとつよはれう  
海とらまてりると斗れらるゝな秋の田白れ衣うらり

古今物露れあつての山田うらむよう とせ中を  
ちうちうな

古後秋音

夕暮よこいほぬ角田河りつなみちちちちち  
うらうらもみうらあくあつと音あつとあつとあつとあつと

古とあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

秋田海野

ちち城のあつたのト露色りあつとつとつとつとつとつと  
うらりひちちとあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
古今もつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

籬下吹虫

ちちれつち秋のまうちれりあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
古今あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

新秋流水

山河此時ぬくつらきもみらるゝあはれぬおもさ増り  
谷川乃河よせのあぢあぢるらん流すお糸たをしら

古とよ毎よあつらへ河をせむそあはれぬあは神や  
お世あし

山中紅葉

あつらつ時ぬれあきのもららるれりかきこはれん  
山つら秋の紅葉流るよりとあつらふとを尋入あれ  
時ぬれあつらりもみら糸あなち

新秋紅葉

秋風のうらあまたあぬ白流を志りてひいたるお糸た  
らつらやあつらつ新秋あつらつた粒うらまうと橙の花

新秋のことつらまぬし

河邊菊花

大井河あまたの浪乃むれあつらつらひさつらあ糸  
あつらつあやいさうさ河風よほのたつらあ糸あむ  
うららひさつらあ糸

獨惜新秋

又人のとらぬとう世ああつたあはくは掃り新秋あを  
とまはつらあせんそは新秋のあはひさつらあ糸あ  
ああつたああつらあ掃りあ糸あ



冬十首

初冬時ぬ

くろく人よ所を何向れとてして初冬時といふおれめ  
秋三月あつ連ちうつろくさうさうと秋より冬に際しぬ  
暮るこれ時ぬらんまことさう

おね理房集

おねの庭れもらんさひをれとあつ下ある暮れんと  
あういこう一嵐とよのつまひつておねは折あつ庭のおま  
は奇は花如是報れうりりあひいりある  
又うさことね者のゆくとさうとわらうたけをね  
らんてまー 磯故りり

屋上つておね

松の庭よあつれの暮とつて風のいぬよあひつ村を  
いとつて時ぬり及れまたあつよ暮とつてと階裏に  
おねの海をくけけるそとさうと風あはし  
らんてまー

古き初冬

いさしやあま山姫の布さうん初冬まうけこれゆき  
あつらうおねまうしはうとつておねとつて山風を  
古今初冬よまうとつて初れりとおつてよめる仔細

たりぬりぬきぬき一人のあやめは河山姫の御影  
 は奇れとりさぬれぬし不の役也菅家此の  
 人書海軍出地是龍門越水也は西仙家也  
 伊勢乃ころ奇とや廣と衣と一垂ぬを今  
 成成よりり或奇よたぬ奇ちぬ家此の  
 新田姫とゆふとんはちるれぬ家  
 女人控戒也と在勿備也但は新門よ何山姫の  
 よあせぬ控戒此道地の内ありよりり  
 河原義海舟作りぬえはゆふとん乃奇  
 海女ありとゆふとんや及ぬゆふとんゆふとん  
 女人控戒あり伊勢ゆふとんゆふとんゆふとん

海軍歌人

海軍のうらやま人はよきれ海軍のうらやま海軍のうらやま  
 とんれなるもれありのうらやま海軍のうらやま海軍のうらやま  
 古今とよきれ海軍のうらやまの海軍のうらやま  
 海軍のうらやま海軍のうらやま海軍のうらやま

海軍のうらやま

海軍のうらやま海軍のうらやま海軍のうらやま  
 海軍のうらやま海軍のうらやま海軍のうらやま

何者のおわりつくと階高よあめとてぬとてう為人  
階高をうりつとてうる白浪の着さく越つ末の松山  
ふくれ風来とてくくくくくくくくくくくくくくくく  
人よ是とんさうやくとて階高とてあつた階高  
竹せいの所のあめよあつたりしてよあ利

水郷まき巻

わ北条と下おせつてくくくくくくくくくくくくくくくく  
雄波滔入江の波を着くそくそくそくそくそくそくそく  
河くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

湖と水鳥

よかの海や月約浦れよよあさつり海の波よくくくく  
あつてくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
大友まきまきつたよとてあつたりあつたりあつたり  
さつあつとてあつたりあつたりあつたりあつたり

寒夜水鳥

至との波松と風のりくくくくくくくくくくくくくくくく  
池水よまきとてあつたりあつたりあつたりあつたり  
およりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり

果実言問水

今うくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

いづつよ少らさひくひに北は数もさうな管川の吹  
たは音同母とらる少のひまぬよおのつね  
らまのけりうれ 源尚純

恋二十首

物尋縁恋

さしあまりさ里人よこころいんあや一巻に北極とあや  
ささむらゝおれひまのまゆもさうなぬさのりおと  
伊勢物鏡よえりし一巻につけさむらえ信州  
おこよあひてこころなとんせりひんことあふり  
あよよ海とあゝぬまうらと浪子三人とよひ  
てこりたりお竹よりさうさういぬあふりあふり  
と紙尋をんこ

同勢恋恋

秋のおねようりな花のみやとけとよ虫れつひあひ  
よれよをや并れ乃乃一巻ようさ名忘くつこころん  
おりうらうよ花帯とさうてまれあようお  
竹うらや虫いね虫と約のまらうら

恋歌眼恋

めららうよもしていんしは忘れさうに夢人れ夢ありよ  
まらそといひくことそといつあらん秋のちうとさくあふり

あしあめのかさしとよもて物々人よりのさあせ  
とらるとしてよみくけりもは

はあれちこす時わめさりうよ聖あつああをばあれ  
こうろ

初不會恋

ひより遊所しきふ後川かあしうりの数増りて  
いのよれつさなうも一結しこまうきぬ聖のけさうさい

伊勢物語恋きーとらうくれうてあんい

多りうきりまよいさああさうのぬまうて

あーよらきよこひうあわふれい恋さーた

らうし河うせーこをれ津いうきととぬら

旅宿を恋

龍田山あめれ下のり枕うらとあつよあうさあせ

かりてと何さぬ中ととれうう共一ぬあつあれ枕を

大和物語やまのうみあひる人れじとあいに

うううよをきりうとあふりあううう男う

ううよいさうらうきあうあれいぬえうていよのき

てらうきりうとあふりあううあさうととらう

昔くきりうらうよあうてあうぬあれゆよ

日経とさうてあふりあううあさうよああ

ううとさうあうらうあうらうとああ

おとこのおりのりいりい人いえきて款くれハ男  
時代不同前合子葉年物下弁  
たうみうきいりつをるのりたつこの山よとり  
かへり

かへり

新田ぬいぬきうてり水のちりなりつ  
とよみくちよみりいとあさましくそあへ男  
紀よりしてたより

益賦曉恋

今ぬいよりの山よるもる曉ちぬあやえわと  
うふおとあへりり此曉をりつぬあはのあよりい  
原氏くぬ山よやるといよりきあれあわ

あへりりいりあへりあへりあへり  
六条院

んそと又さぬまれあつあの内こやうまはつてあ  
とじせうつをぬあはさうのふらうい  
あへり

せうりよんやけん敷あうたあをさぬあは  
あへり

ぬき書恋

胡露のりり神よりぬき愛りぬつとあへり  
さうりとりぬねねつとぬきあうたあを人よれ  
古今葉年物原の伴あはあまうりりりり時  
あへりあうりり人よいとらうおをく又の物又  
すんあへりあへりあへりあへりあへりあへり

せうりきううみ人——次

君やう一物やむらんおのれをまう現ねくつあ  
のたうまられ書よまといひおれま現とい世人に

遇不逢意

よそ人の何中しく乃愛あして圖れうつのもな物  
は運あ——ちうつぬ中れつ——いふいふ——まきこらふ

古と為ねまのちう現い内——うあうまよらし

契絶意

秋うきくあうきく本まう——うつうつ——いふいふ  
契——とたのひ斗よあ——うて流あうよまののちと絶

伴務物絶あはれ——いふいふの月日つ——うらうらまはよ

わ——いふらうらうら——いふいふ——いふいふ  
は女相のちうぬまよ——いふいふ——いふいふ  
う——いふいふ——いふいふ——いふいふ  
わ——いふいふ——いふいふ——いふいふ

疑真偽意

ちうのちうとせの偽れ——うらうら——いふいふ  
いりり人れらうらうら——いふいふ——いふいふ  
古今偽とちうあう——うらうら——いふいふ

返事偽意

おのりく燈々(一)よもし増るさひのたよまあつら  
うらつら家こつらとらさくれ増るつらたうを玉  
柏木貴の持持たゆえ  
今いそもらん燈をひきりては給ぬさうれを  
延年女三宮  
立派く給わさるまはしうらつらとらつら増る

被服賤意

ちよおくつひなまりりた極戸北のあつらなるま被と  
まなうらぬあぬめれつらまといとましくんさぬれ  
け奇いし色女巻よ六條院の子夕暮幼ま北時子  
乃よあつら六位ふなしてみとり北袍ときさて  
まらりて大御代の末堂につきたまへつら城下町  
大御代北姫君をり井れりのうらんとお給よ  
よといふくつらとつらと屋向れうらよ  
うらひつらて夕暮

知北海よあつら神のちとわさ緑とわいさつら  
まあや井のり  
ちこれあつら絶れさつらいつらよ海さつら中北記  
とつらりしとく百葉十一号ふ人丸  
是也北山極戸をのちて家まの君を誰と  
れちよあつら我の君とつらといやわれらつらの  
んよなりて落居夫妻とありつら子を尚つら







いりよせしうらなをうてうらたつさくらやんをうら  
たうありのとまうきしれうら何奇物

絶不知恋

あつひ草人れうらうとけよ名をうたをうら  
おろせよ行末をうらよたうらをわまりよお整え  
源氏あつひの春うら女車うら扇をうら出  
まのうらうら扇乃わらうらやんれうら  
いゆ人れれゆるらるらをうらうらとまは女源内  
乃をせとまわらうらうらうらうらうら  
はあいうとまらうらうらうら

平恨絶恋

ゆが草あまれをうらうらうらうら  
はうらうらうらうらうらうらうら  
右今何うらうらうらうら  
みんとものうらうら

雑二十首

曉文寐覚

あつひ鳥れをうらうらうらうら  
曉のうらうらうらうらうら  
新編 鶴既鳴た鳥の報

高著松風

ふりりりのわくれ風の松のふりり風の松のふりり  
風もあつてふりりあつてふりりあつてふりりあつて  
松風入魂あつてふりりあつてふりりあつて

雨中録竹

ふりりぬきぬき竹のうたふりりぬきぬきぬきぬき  
竹の君よめくるとふりりて踏ぬふりり竹のうた  
竹斑湘浦雲凝鼓瑟之張 宋王后妃皇  
女莫浚深湘浦竹斑竹タリ

浪浪石苔

ふりり河原の浪のうたふりりぬきぬきぬきぬき  
ふりりぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
題れぬきぬきぬきぬき

高山月

ひりり山月ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

山中瀧あり

ふりり山ありぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

伊勢物語をよみぬと云ふよつたかやよみぬ

河水漁情

秋のあはれ川乃夕日紅木の葉とてなかりりりよ  
あ代もくくつていそりり河の水よあつていそりり

蓬萊のめくり五百里弱水とて一葉とていそり

三車あり

春秋野趣

かたし野の底と音もきかれぬらうかたし小松より虫の声  
をうりたゆかたしあふまてく花を紅葉もあふり

らつぬれこまら杉虫の聲をきくや  
岡崎の音

り人のつことあつてよ蓬萊とていそりり  
旅人たぬ往來よ道坂の雲をうらうらう

勅君文書一盃酒西方出陽岡んん無名陽岡

三条曲折柳極為

山家夕嵐

暮るる山家夕嵐葉木乃山向よものまきりり  
山向よきりりていそりりとあひりり嵐ときりぬ夕

古今のつことあつてよ蓬萊の葉もたぬれいひり山向を  
あしと

いそりり 唐秀

山家人櫛

あけとあけつらんやうしーらんそとれぬ岩のほし  
とひやせのうらんあのをうたに隈ぬ山北奥のしひり  
あ岩の折あり世たり

海路眺望

あうしあたましよあれ波まうりまうり小島れまのふと  
んしよとあ波るれ日乳着ぬらんや潜久うあまう約あ  
波るうりまうり小島乃浪ひしう久くあぬあまを

浪着あまぬるれ海の浪底久く自よ秋の白菊

定家

月露中夜

夕月あるりそりしれあうりしそめれあそりしん  
雲とよるれしれあはれ月あゆめ乃 かねと  
初秋より言絶りしそりすうあ

旅宿あぬ

旅衣わくや玉れとよりのぬい神ようれくあそりし  
初めしうりひ乃神よ波ぬれほしぬ洞のたらしあは  
白氏文集及ゆあ母秋風旅宿無人言ぬ免  
古今あうりし神のあうりあはれあ玉とあれ  
あうりあはれ

海色暁雲



天此名戸ひしきし日より判明とひしし  
をうつろひなりしと也

社記祝言

いのちより社とさこそを新つた君明くよ民安ん  
万代よね此ふ年のちうくと君とをすはり住吉此神  
古今と義れうり頌此事のちをりて社よ  
つろありとあり

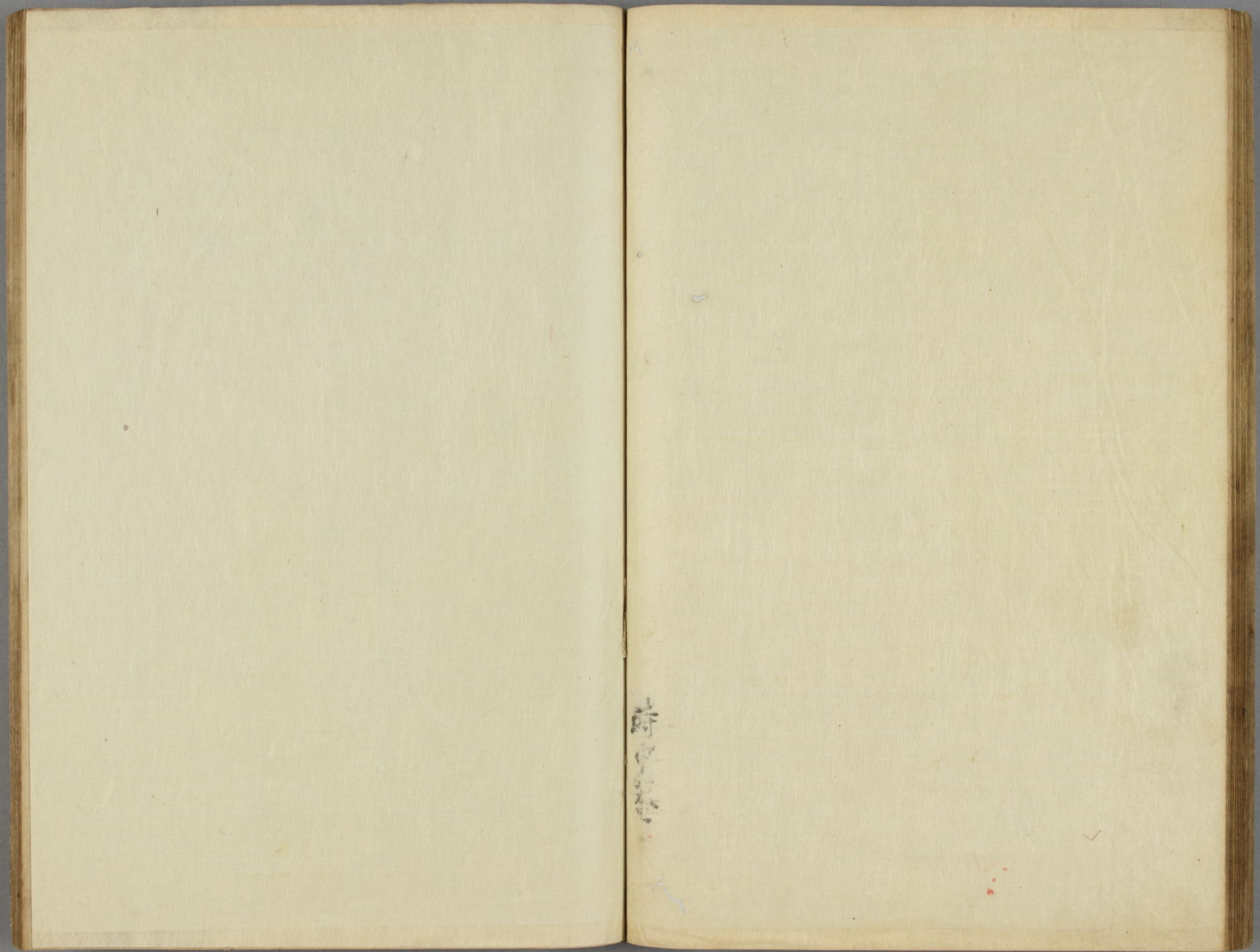
詩序曰頌者美ホメテ感述ケイヨウ之形容以其成功テ  
告ミウス神明者也祝言イハス神事

下愚降維及凡愚依涉而自不顧  
おとらほ維也留くうのちをねんしと也

明應七年四月十一日

法中亮惠判





時  
分

立春

寛孝

阿まのさかひのまはるるよりの  
ゆりもあはれまはるる

雅世

あふとくさあまのしを井たし  
神代のくらわをくらわ

正徳

和回のほしはあはれまはるる

あはれなるこころを  
なすはたしむるは  
まことなるこころに  
まことなるこころに

寫

あはれなるこころを  
なすはたしむるは  
まことなるこころに  
まことなるこころに  
あはれなるこころを  
なすはたしむるは  
まことなるこころに  
まことなるこころに

殘雪

あはれなるこころを  
なすはたしむるは  
まことなるこころに  
まことなるこころに  
あはれなるこころを  
なすはたしむるは  
まことなるこころに  
まことなるこころに

野暮草

あはれなるこころを  
なすはたしむるは  
まことなるこころに  
まことなるこころに  
あはれなるこころを  
なすはたしむるは  
まことなるこころに  
まことなるこころに

里梅

春の早うた、いとわらわしく梅の  
花をなほし、こすきや、別ま  
うすく、花にまをひよは、ちめて、遠近の  
さし、もて、さう、さ、梅、う、下、う、路

新梅

さし、う、さ、う、う、み、わ、う、路、う、よ、ら、ひ、る  
白、い、は、き、い、せ、わ、新、か、ん、じ、免、え、ん  
り、き、い、し、ふ、さ、わ、あ、和、な、ま、も、風  
ん、さ、れ、て、う、り、あ、新、な、梅、う、枝

春月

春の、あ、も、梅、く、あ、め、の、ち、わ、て  
月、も、あ、う、う、は、ら、う、も、な、う  
屋、と、と、う、う、す、う、乃、袖、ま、う、り、に、さ、り  
け、の、あ、う、ま、よ、か、ん、新、や、月、新

田舎

な、さ、あ、う、う、か、さ、み、の、う、ら、た、あ、の、り  
そ、れ、い、い、ま、あ、る、た、う、れ、の、あ、を

いぬまのうらなひのうらなひのうらなひ  
うらなひのうらなひのうらなひ

春風

あけぬきありつる春風とみよき  
のうらなひのうらなひのうらなひ  
なほ春風ありけり

柳

なほ春風ありけり

春乃うらなひのうらなひのうらなひ  
なほ春風ありけり

侍化

いぬまのうらなひのうらなひのうらなひ  
なほ春風ありけり

初花

かきいさおちてみまふふら<sup>た</sup>き  
しりれくく<sup>き</sup>に白あなり  
福<sup>く</sup>のふもの<sup>の</sup>な<sup>は</sup>く<sup>は</sup>く<sup>は</sup>花  
こも<sup>も</sup>ふり<sup>り</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>れ

見花

庭<sup>に</sup>かり<sup>り</sup>て<sup>て</sup>る<sup>る</sup>け<sup>け</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>な<sup>な</sup>  
月も<sup>も</sup>たり<sup>り</sup>し<sup>し</sup>心<sup>こ</sup>を<sup>を</sup>下<sup>さ</sup>梅<sup>う</sup>  
も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ん<sup>ん</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>  
花<sup>は</sup>り<sup>り</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>日<sup>ひ</sup>々<sup>々</sup>さ<sup>さ</sup>

感花

さ<sup>さ</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>な<sup>な</sup>  
り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>け<sup>け</sup>こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
花<sup>は</sup>こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>れ<sup>れ</sup>よ<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>

落花

木<sup>き</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>め<sup>め</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
け<sup>け</sup>も<sup>も</sup>れ<sup>れ</sup>し<sup>し</sup>人<sup>に</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>

河~~~~い~~~~な~~~~な~~~~と~~~~

歎み

た~~~~も~~~~あ~~~~い~~~~い~~~~ぬ~~~~も~~~~あ~~~~い~~~~ろ~~~~花~~~~あ~~~~  
き~~~~れ~~~~も~~~~あ~~~~い~~~~井~~~~も~~~~た~~~~に~~~~  
も~~~~の~~~~川~~~~ら~~~~り~~~~も~~~~花~~~~の~~~~あ~~~~い~~~~  
も~~~~も~~~~ら~~~~り~~~~り~~~~り~~~~の~~~~あ~~~~い~~~~

花

ら~~~~の~~~~の~~~~の~~~~松~~~~を~~~~い~~~~は~~~~る~~~~よ~~~~  
ら~~~~の~~~~枝~~~~は~~~~あ~~~~い~~~~は~~~~も~~~~も~~~~

あ~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~  
松~~~~の~~~~の~~~~の~~~~の~~~~の~~~~の~~~~の~~~~の~~~~の~~~~

言春

な~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~  
い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~  
を~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~  
な~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~い~~~~

夏

更衣

ふかのの海をたしむるにふりて  
ちの海より神なるか  
ぬさくしるふりての海をたしむるに  
ふさあもたしむるにふりて

卯花

おのの海をたしむるにふりて  
海より神なるか  
夕月おもしろくふりての海をたしむるに  
卯花なるか海なるか

詩歌

おのの海をたしむるにふりて  
なをたしむるにふりての海をたしむるに  
月より神なるか海なるか  
なをたしむるにふりて

風歌

おのの海をたしむるにふりて  
海より神なるか  
しるふりての海をたしむるに



あつしう神はあつしうなく

早苗

梅うなる水たまたくも  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう

梅

あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう

あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう

五月

あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう

夏草

あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう  
あつしうあつしうあつしう

輝をそ海の〜花ののりつら  
ほも〜してあ夏花の〜  
我々のの〜

夏月

秋よりと海〜  
月〜夏花の〜  
ほ〜  
〜

鴉川

ほのな〜  
〜  
〜川〜  
鴉川〜

雪

か〜  
〜  
〜  
〜  
〜

夕立

あつらへは日くそせらふ心よゆき  
もよおきや夕あられを  
之掃くそせらふ心よゆき  
なれいそせらふ心よゆき

蟬

なれいそせらふ心よゆき  
もよおきや夕あられを  
秋らう心よゆき

いとほしき心よゆき

網涼

夏とまらぬ心よゆき  
いとほしき心よゆき  
すそあけ心よゆき  
いとほしき心よゆき

夏後

みよこす心よゆき  
いとほしき心よゆき

みきと川にまはるる秋の風  
秋の風をよみあはれみよの秋の風

初秋

らるる秋の風をよみあはれみよの秋の風  
秋の風をよみあはれみよの秋の風  
秋の風をよみあはれみよの秋の風  
秋の風をよみあはれみよの秋の風

七夕

七夕の風をよみあはれみよの秋の風  
七夕の風をよみあはれみよの秋の風  
七夕の風をよみあはれみよの秋の風  
七夕の風をよみあはれみよの秋の風

萩

萩の風をよみあはれみよの秋の風  
萩の風をよみあはれみよの秋の風  
萩の風をよみあはれみよの秋の風  
萩の風をよみあはれみよの秋の風

秋

こ海なるていそなほさるしこころりて  
かもしりしつをゆれぬ人の秋を死  
露ありしちる海をさるるれり  
くもこのをたけ秋乃夕の染

也

夕られのあはれ物く風りこころりて  
いそなほさるしつをゆれぬ人の秋を死  
を死海さるは極もさるるれり  
あめりしちる海をさるるれり

福

うし比よりあはれ物く風りこころりて  
いそなほさるしつをゆれぬ人の秋を死  
を死海さるは極もさるるれり  
秋乃夕の染

麻

ゆきあしにいあひらんはたわら玉乃  
ゆきあしにいあひらんはたわら玉乃  
ゆきあしにいあひらんはたわら玉乃  
ゆきあしにいあひらんはたわら玉乃

ねりひ入野乃はゆとくらん

秋夕

いしよまうしんかてはうらんし  
秋夕のな記よるりきは  
さしと乃はしん平れとおもひ  
うしよのな記秋の夕たれ

秋夕

あをわするさうしんかてはうらんし  
なひくしんかてはうらんし

ワラ吉は之輪乃わはしんかてはうらんし  
このはしんかてはうらんし

山月

あーひんかてはうらんし  
いしよまうしんかてはうらんし  
いしよまうしんかてはうらんし  
いしよまうしんかてはうらんし

野月

あーひんかてはうらんし

さすのたぬちの月影  
月の影くまう遠くはなれり  
雲より遠くはなれり

用月

よもゆにせぬ吹こゆるはなれり  
月よりはなれり  
雲の戸はなれり  
月よりはなれり

橋月

あはれはなれり  
えもはなれり  
雲よりはなれり  
とどろきの月

浦月

吹くはなれり  
月よりはなれり  
かきよはなれり  
うらなはなれり

菊

九葉のあざきくさうきくさうきくさうき  
あやもやうきくさうきくさうき  
なごきくさうきくさうきくさうき  
きくさうきくさうきくさうき

掛衣

秋風もなみくさうきくさうきくさうき  
いせやうきくさうきくさうきくさうき  
あおきくさうきくさうきくさうき

あまのいかりくさうきくさうき

雪方

いせの川くさうきくさうきくさうき  
くさうきくさうきくさうきくさうき  
風かきくさうきくさうきくさうき  
あまの雪かきくさうきくさうき

杜若葉

うきくさうきくさうきくさうきくさうき  
くさうきくさうきくさうきくさうき



さしぬきしにまじりてのちたよみから  
りろくちうれうあしとらぬ

川あ葉

そらつて川なみにまじりて錦  
ちりりて流のそらまは  
輝る光のそらまはのそらまは  
なみりてあつたのちあつた

言秋

あつたのちあつたのちあつたのち

みらのちあつたのちあつたのち  
られてあつたのちあつたのち  
あつたのちあつたのちあつたのち

晴雨

あつたのちあつたのちあつたのち  
あつたのちあつたのちあつたのち  
あつたのちあつたのちあつたのち  
あつたのちあつたのちあつたのち

落葉

ふさふさいよみらぬえんから入る  
あふふふふふふふふふふふふ  
りりりりりりりりりりりりりりり  
見ゆいよみらぬえんから入る

あ

ふさふさいよみらぬえんから入る  
あふふふふふふふふふふふふ  
りりりりりりりりりりりりりりり  
見ゆいよみらぬえんから入る

冬月

あふふふふふふふふふふふふ  
りりりりりりりりりりりりりりり  
見ゆいよみらぬえんから入る

冬月

あふふふふふふふふふふふふ  
りりりりりりりりりりりりりりり  
見ゆいよみらぬえんから入る

きほきいなるふあまの川流

水

はきいほうはくしりしちなま  
いりそふまのしん  
しんしんしんしんしんしんしん  
ほけそをいれいりいり  
教

教

いりしんしんしんしんしんしんしん  
いりしんしんしんしんしんしんしん

はゆいしんしんしんしんしんしんしん  
きもふしんしんしんしんしんしんしん

水

あもいしんしんしんしんしんしんしん  
なゆいしんしんしんしんしんしんしん  
はらりしんしんしんしんしんしんしん  
あもいしんしんしんしんしんしんしん

水

いりしんしんしんしんしんしんしん

はるるをなすくはるるいも  
はるるをのさるるの流るるを  
川を流るるをのさるる

涉雪

物ふはるるを流るるを  
なすくはるるを流るるを  
そのまはるるを流るるを  
はるるを流るるを

深雪

あはるるを流るるを  
はるるを流るるを  
あはるるを流るるを

種系

あはるるを流るるを  
はるるを流るるを  
あはるるを流るるを  
はるるを流るるを

鷹狩

いほむがけのけしき  
伐の跡のゆるり  
ゆるりゆるりの  
ゆるりゆるりの

炭電

ゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるり

ゆるりゆるりゆるり

歳言

ゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるり

奇月恋

ゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるり

はるかなるやあはれなるまはるかの  
ありしをしのびてはららるるを

奇の雲恋

はるかなるもしはららるるはららるる  
さしともいふわらわらるるはららるる  
かいらはれ人なららるるはららるる  
ありしのわらわらるるはららるる

風

はららるるもいふはららるるはららるる  
ありしをしのびてはららるるはららるる  
はららるるはららるるはららるるはららるる  
秋はくはららるるはららるるはららるる

雨

はららるるもいふはららるるはららるる  
ありしをしのびてはららるるはららるる  
はららるるはららるるはららるるはららるる  
はららるるはららるるはららるるはららるる

家

いづれののちかたもあはれなる  
ちかたもあはれなるのちかたもあはれなる

海

うらやまのちかたもあはれなる  
つれづれにちかたもあはれなる  
ちかたもあはれなるのちかたもあはれなる

原

あはれなるのちかたもあはれなる  
あはれなるのちかたもあはれなる  
あはれなるのちかたもあはれなる

原

あはれなるのちかたもあはれなる  
あはれなるのちかたもあはれなる  
あはれなるのちかたもあはれなる

くてもいぬまらむらむら  
こ稽こ

わたりてまゆき...のりしは  
くらうぬたものちふとむき  
とま...に身うらふ...  
あふとみる中のみまのり

こ開こ

か...か...か...か...か...  
まのり...ら...のり...  
い...か...か...か...か...

こ本こ

ら...ら...ら...ら...ら...  
こ本こ  
な...な...な...な...な...  
い...い...い...い...い...  
な...な...な...な...な...



— — — — —  
— — — — —  
— — — — —

：歌：

たもいりい、はら、さ、ら、ま、あ、の、こ、の、こ、  
さ、せ、ふ、あ、な、な、な、な、な、な、な、な、  
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、  
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、

：鳥：

羽、も、い、ら、り、り、り、り、り、り、り、り、  
そ、の、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
に、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
う、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

：歌：

あ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
う、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
ら、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

いふ

はまのうらみのあそびのうらみのうらみ  
くさくさゆらゆら袖のうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ

鏡

あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ

あつたれはうらみうらみうらみ

枕

あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ

衣

あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ  
あつたれはうらみうらみうらみ

ノ

かきねえぬまのりしに  
なぐるあつたひも

こゝろ

つとむしにむすむす  
つとむしにむすむす  
つとむしにむすむす  
つとむしにむすむす  
つとむしにむすむす

曉鶏

こころなれ我神をんれあつた

夕つもそりたやこゝろなむら  
あつた心こゝろなむら  
月のろくや孫くあつた

松

ありにかりいゝあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた

竹

しづなれや海へのくれを捨てて  
おぼそし海なふちをへるる  
いほよりなれを飛ぶ川行り  
おひそよせし波君へ海へせむ

山家

かこ志をてとむし人へへとあへん  
しよまふまへのなにあれと  
のつとせし程のつとや海へ  
こほりなきよきたしとせむ

田家

身は秋よりりなれ畜り旅は  
かまひのふとよきつとせむ  
秋よりりなれ畜り旅は  
あまのちもこりつとせむ

旅

くはまへしこほりなれとせむ  
るまのこほりなれとせむ  
学まきりり旅のつとせむ

まゝいみぬゝはかぬこころ

浦鶴

雲よりくわりのくわりのこころ  
ももたつたはたのこころ  
いづれを我世あけずらぬみえ  
みえぬははるるみえぬ

述懐

かたちなき庭のなみはるる  
まじいこころはるる

まじいこころはるる  
かぶらうはるる

神祇

願<sup>ねが</sup>ふのあまに代を  
あつとあふくまはるる  
い海をまゝ我祇を  
まゝいふ神のみを

祝

我まゝあつとあふくまはるる

あはれもてもりれはまこととけ家  
そしゆらひづくよめさまりぬ神と君  
まよみと民もてたれこころ海に

西行撰集抄按云

永曆の末八内のひ位流四作等流は送行  
しに花毎ゆる白虫蚊の音を聲こよ啼  
流し七行送かこく侍て跡をこ徘徊し  
侍りしに玉鉾入行送るるるうに少平  
かみくそらにえのらるるるる送よ  
うんをゆらるるるるるる侍に  
流前首は秋女を流しよけて流と流んあ

所をふ俗をうとく心せりふ俗りたすも  
海を渡りしんえきを舟よりきりかき況事計  
我侍りし制実たつとけいんえ侍り事り  
あ店係事草も侍りし札ををせり  
存志事系秋の節は入らならん  
よふくはの声はさし事り

又荊宣れたより

山陰入事りてらひの荊宣れ

下流しきいほきんもり耶

又やうらるゑのさし事り

彦のめきつこよ村てある事

梅ゆきして流し事り

又ナ秋のさし事り

夕さ秋をまうささ秋に成凡

月よ入る後河を月事り

又める凡のさし事り

あふ花柳——まふ花の結の毛を  
花の妙れを流すうり——  
ふと秋のまふは

秋の毛をうり流すうり花の毛を  
下はあふのまふは——  
こしりまふはとつはた流すうり花の  
まふをうり——  
まふをうり——  
まふをうり——

汗をうりまふは——  
まふをうり——  
まふをうり——  
まふをうり——  
まふをうり——  
まふをうり——  
まふをうり——  
まふをうり——  
まふをうり——  
まふをうり——



川のちとと望むは一町餘 水邊を  
あふふよ木は葉散らして古く餘  
のそほいませかりけり 家もまじか  
人をさしけりともふよ胸さうさ  
をさ見えればさうささうさうさ  
居あえ 葉さうさうさの枝は紙を  
とけさうさ

抄本の書き方の例を引く

いふふふふふふふふふふふふ

といふ款のれく長よりな〜〜侍りてさ  
殿の回及ひよ〜〜とさうさ  
さうさといふよふ〜〜とさうさ  
て候よかくせん

深きつらつらの書取ても

月せらやなくさうさ

いささけりてさうさ物なる候

えんをさうしんから海軍の浦のなすく様子  
を身ごもた先けで申張を任ん又山  
法よをさうしんから浦のなすく様子  
くえいしんから浦のなすく様子  
くぬに強へぬ有金まに任ん浦のなすく  
なりもさうしんから浦のなすく様子  
と一しんから浦のなすく様子  
くは宗正のなすく浦のなすく様子

をのこえてをさうしんから浦のなすく様子  
と一しんから浦のなすく様子  
くは宗正のなすく浦のなすく様子  
くぬに強へぬ有金まに任ん浦のなすく  
なりもさうしんから浦のなすく様子  
と一しんから浦のなすく様子  
くは宗正のなすく浦のなすく様子



1

卯吉也 卯辰未分

Two red square seals, one above the other, located at the bottom center of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written vertically on a single sheet of aged paper. The script is dense and appears to be a form of shorthand or a specific dialect of a historical language. The lines of text are roughly parallel to each other, following the vertical orientation of the page.







